

# 技術 職特集 『公務員という選択』

## ～学んだ知識を全て活かして働いたら～

### 土木 職 ～オリンピック・パラリンピックに向けた工事もスタート～

### キャリアを振り返って

公務員としての技術職は人事異動により様々な業務を経験することができます。能力とやる気次第では、将来、管理職として市政に貢献していくこととなります。ここでは、現在、管理職として活躍している職員に、これまでの経歴や担当業務を振り返っていただきました。

#### 平成元年4月 入庁（建築課へ配属）

大学を卒業し民間企業に2年間勤めましたが、社会貢献ができ、やりがいの持てる公務員になろうと思いました。その中でも地元のために役に立つ仕事をしたと思い入庁しました。

担当は、電気設備、空調設備、給排水設備などの建築設備の設計、施工監理、工程管理の業務でしたが、この頃はバブル景気の真っただ中で公共事業も多く、様々な公共施設の建設に携わることができました。自分の設計したものや工事監理したものが実際に出来上がり、形になることに大変うれしく思ったことを覚えています。

一級管工事施工管理技士の資格を取得！

#### 平成10年4月 建築指導課へ異動

建物を建てるにあたり建築基準法に適合しているかを審査する業務につくことで、建築基準法を学ぶことができました。

建築設備士の資格を取得！

#### 平成14年4月 係長に昇格

責任が重くなり最初は不安がありましたが、係のリーダーとしてのやりがいがありました。震災直後に行う応急危険度判定の模擬訓練を市営住宅の建替えにあわせて行いました。既存の市営住宅を利用し、ボランティアの方々や府中市で初めて実施することができました。

#### 平成16年4月 計画課へ異動

計画課では、開発事業を行う事業者、府中市の地域特性に配慮した土地利用にすることや府中らしい景観に配慮することなどを誘導しました。また、まちづくりの方針を決めるうえで、地域住民との意見交換などにも携わることができました。府中市が景観行政団体になるための業務に携わりました。

#### 平成20年4月 課長補佐に昇格 管財課へ異動

管財課では、東日本大震災の発生時に市庁舎内にいる市民及び職員の避難対応や、その後の計画停電における市民からの問い合わせなどへの対応、庁舎内の仮設照明準備などを行いました。施設管理の難しさを知るとともに、部内の横の連携、協力体制で乗り切ることが出来たことは忘れられない経験です。

#### 平成23年4月 課長に昇格 計画課へ異動

#### 平成25年4月 管理課へ異動

高度経済成長期に整備してきた道路、橋梁、街路灯、街路樹、公園、下水などのインフラ（都市基盤施設）が更新時期にきています。全国的にどの自治体も同様の状況であると思われませんが、今の財政事情ですべてのインフラをこれまでと同様に維持管理できない状況にありますので、インフラに係る今後の管理方針を示した府中市インフラマネジメント計画の様々な取り組みを行い、安全で持続可能なインフラ管理に努めていきたいと思います。

### 受験生へ

お待ちしております！  
これからの府中を  
一緒につくって  
いきましょう！



「課が一丸となって業務に取り組めるよう、自分も切磋琢磨し組織として成果を出していきたい。」

### 都市整備部管理課長 松村 秀行（建築職）

#### 管理職として

管理職になって思うことは、管理職はただ業務を進めていけばよいというのではなく、結果を出さなければならないということです。

そのためには、風通しの良い、話のしやすい職場環境や職員の能力を引出し、同じ方向に向かい楽しく仕事ができる環境をつくるのが管理職の役割だと思います。以前、「管理職は、鳥の目と虫の目を持たないといけない。目の前のことだけでなく時には高いところから広く物事をとらえる目を持たなければならない。」と上司に言われたことがありました。難しいことですが意識しています。

当然、責任も重くなりますが、入ってくる情報量も多くなること、他課との調整をすることなどから人とのつながりも広がり、管理職ならではのやりがいや喜びもある職務であると思っています。



### 建築 職 ～発注・設計・施工・検査なんでもできるのが行政～

建築の世界に興味を持ち、様々な分野を学んできたみなさんなら、その専門分野が多岐にわたり、自分がどの分野で活躍できるかを深く考えたことがあるはず。自身で専門分野を選択し、その分野の専門家となる道もありますが、行政としての建築職なら、都市計画の決定・公共施設の設計・工事費用の積算・工事現場の工事監理・建築設計の法適合審査など、これら全てに携わることが出来ます。

さらに、異動により違う分野の仕事を経験することで、広い視野で仕事に取り組むことができます。

府中市なら、学校や文化センターといった施設から、美術館、劇場、博物館、競技場、ごみ処理場などの大規模で特殊な施設もあります。今後は、建築物を造るだけでなく、既存の施設をより良い形で残していくという、「公共施設マネジメント」の考えの下、外壁や床改修などの営繕工事を行いつつ、大規模改修や建替えも行います。

現在、大規模事業として給食センターの移転及び市庁舎の建替え事業に取り組んでいます。給食センターは、ドライシステムの導入や食物アレルギーに対応した給食の提供を目的に、新たに用地を取得し、平成29年の完成を目指し計画を進めています。

また、建物の狭あい化や、バリアフリーへの対応、維持管理経費の増大など様々な課題を抱え、最も古い部分で建築から約55年が経過している市庁舎は現在、平成33年の竣工を目指し計画を進めています。

自分の勤務場所の建替えに携われる滅多にない機会に建築職の職員は、やりがいを持って取り組んでいます。

ぜひ、みなさんも一緒にこの大規模事業を成功させましょう！



スマートインターチェンジ（昨年度実績）

市の技術職員が携わる業務は、都市計画や景観、建築指導などに係るソフト面から、道路や公園、下水道などの都市基盤施設や小中学校、文化・スポーツ施設などの整備に係るハード面まで、市民の生活に密接した多岐に亘る内容です。土木職はその中でも主に都市基盤施設の整備において、構想の立案、計画・設計、工事監理といった一連の業務に携わることから、施設の竣工を迎えた時の達成感はかけがえのないものです。府中市は道路整備の面で、都市の骨格を成す都市計画道路の完成率が82.2%（平成26年度末）と、区部の64.2%、多摩部の59.5%に比べて、非常に高い整備率となっているのが特徴です。また、市民生活に密接した生活道路については、誰もが安全で安心して利用できる道路空間を目指し、歩道の拡幅やバリアフリー化の整備を進めています。一方で、市内を東西に貫く中央自動車道において、平成27年3月7日に開通した都内初のスマートインターチェンジの整備に中心メンバーとして協力し、中央自動車道へのアクセス強化や周辺の道路交通の分散、地域交通の利便性の向上にも大きく貢献しました。今後は、更に2路線の都市計画道路の新設を予定するほか、2020年の東京オリンピック・パラリンピックの開催に向けた競技会場予定地周辺道路の電線類の地中化整備に着手する予定で、ともに平成28年度より工事が始まります。府中市では次世代を見据えた市民のために必要な事業が控えており、土木職として力を発揮する場面は数多くあります。

（写真提供：NEXCO中日本）



文化センターの改築（昨年度実績）